



Collaborative Repository of Ritsumeikan Univ & APU

## 立命館学術成果リポジトリ

立命館大学図書館/APUライブラリー  
<http://r-cube.ritsumei.ac.jp/>

### 機関リポジトリの概要説明

**R<sup>3</sup>(R-Cube)**は、立命館大学図書館及びAPUライブラリーが共同で構築する立命館学術成果リポジトリです。

#### Cube 1 機関リポジトリとは??

機関リポジトリとは、「大学および研究機関で生産された電子的な知的生産物を捕捉し、保存し、原則的に無償で発信するためのインターネット上の保存書庫」(国立情報学研究所)です。

**R<sup>3</sup>(R-Cube)**は、立命館大学・立命館アジア太平洋大学の機関リポジトリの名称で、両大学に所属する教員や研究者によって創造された知的生産物を電子化して登録し、検索と閲覧を可能にするデータベースです。**R<sup>3</sup>(R-Cube)**とは、Ritsumeikan Research Repositoryの頭文字からとっています。

#### Cube 2 機関リポジトリを作る理由とは??

**R<sup>3</sup>(R-Cube)**をインターネット上で公開することにより、立命館大学及び立命館アジア太平洋大学に所属する教員や研究者は自身の研究成果物を簡単に世界に発信できます。可視性が向上することで、研究成果の被引用率の向上が期待できます。また**R<sup>3</sup>(R-Cube)**に研究成果を登録することで、恒久的な保存と管理も可能となります。

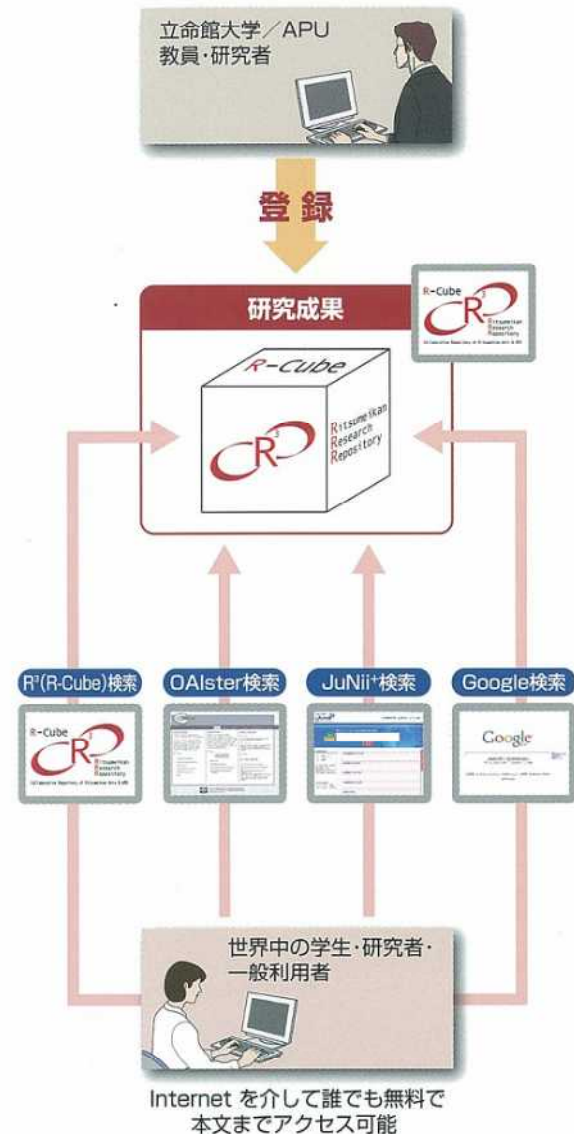
両大学にとっても、研究成果を組織として国際的に発信することで、両大学の研究活動の認知度・信頼性・社会的価値を高めるとともに、国際的な学術研究の発展に貢献することができます。

**R<sup>3</sup>(R-Cube)**に登録された研究成果を両大学に所属する学生や教員・研究者はもちろん、世界中の研究者も簡単に入手し閲覧できることも機関リポジトリのメリットです。このことにより、両大学の研究成果を基に更なる研究の発展が期待できます。

#### Cube 3 国際的な機関リポジトリの動き

国内では70以上の大学や機関(2008年1月現在)で、海外では1,000以上の大学や機関(2008年2月現在)で、機関リポジトリの構築がされています。**R<sup>3</sup>(R-Cube)**に登録された研究成果や他大学のリポジトリに登録された研究成果は、Googleなどの検索エンジンや国内ではJuNii+(国内のリポジトリの一括検索)、海外ではOAlster(世界のリポジトリの一括検索)といったポータルサイトから検索し、閲覧することができます。

### R<sup>3</sup>(R-Cube)の概要図



R<sup>3</sup>(R-Cube)から研究成果を公開するメリット

教員・研究者にとって

- 研究成果の容易な発信ツールの確保
- 研究成果の可視性の向上
- 研究成果の被引用率向上の可能性

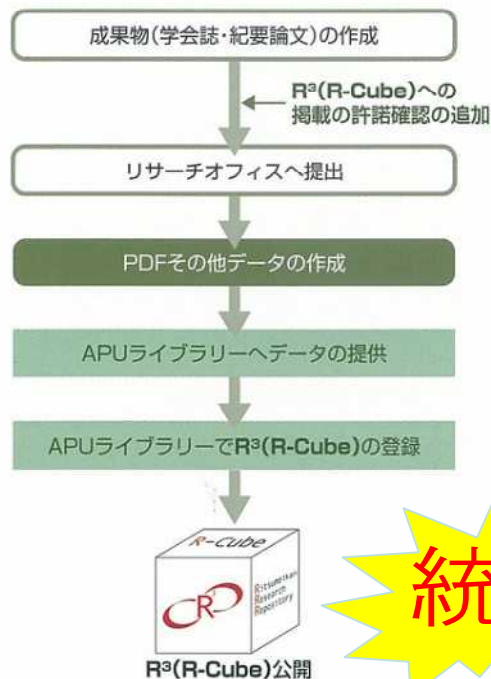
学園にとって

- 学園の研究活動の認知度・信頼性・社会的価値の向上
- 国際的な学術研究の発展に貢献
- 研究成果の恒久的保存・管理

利用者にとって

- 学園の研究成果への容易なアクセス
- 学園の研究成果を基にした更なる研究の発展

登録までの流れ(APU)



■ 教員・研究者の方へ

学会誌・紀要論文を作成された場合は、リサーチオフィスへ提出してください。

その際R<sup>3</sup>(R-Cube)への掲載の許諾を確認させていただきます。承諾いただきました学会誌・紀要論文につきましては、APUライブラリーがリサーチオフィスから当該データを受け取り、APUライブラリーでR<sup>3</sup>(R-Cube)への登録・公開を行います。

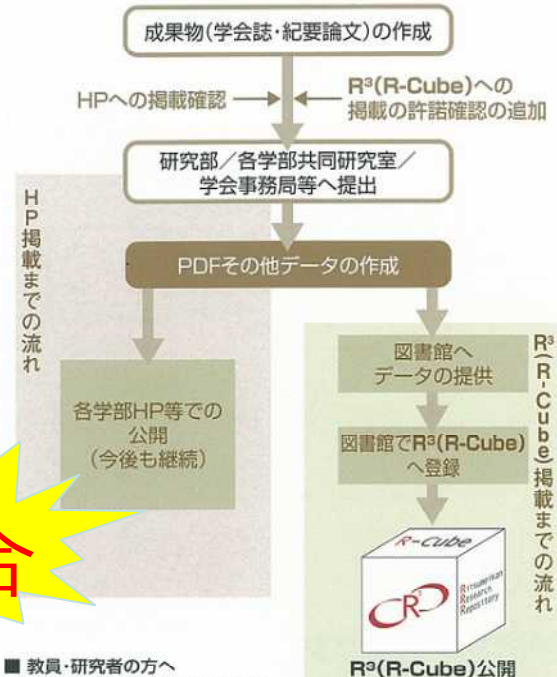
- 登録できる資料  
学会誌、紀要論文(「立命館アジア太平洋大学」と名のついたもの)
- 登録できる人  
立命館アジア太平洋大学に所属している教職員、研究者
- 著作権に関する留意点  
R<sup>3</sup>(R-Cube)に登録する研究成果物は、著作権処理済のものに限ります。

データ提出先/問い合わせ先

立命館アジア太平洋大学 メディアセンター  
 Mail dspace@apu.ac.jp Tel 0977-78-1140  
 HP http://r-cube.ritsumei.ac.jp/

登録までの流れ(立命館大学)

※従来のHP掲載手続の延長でR<sup>3</sup>(R-Cube)への掲載が可能です。



■ 教員・研究者の方へ

学会誌・紀要論文を作成された場合は、これまでと同様、研究部、各学部共同研究室または学会事務局等にご提出ください。

その際HPでの掲載に加えて、R<sup>3</sup>(R-Cube)への掲載の許諾を確認させていただきます。承諾いただきました学会誌・紀要論文につきましては、研究部、各学部共同研究室または学会事務局等から図書館が当該データを受け取り、R<sup>3</sup>(R-Cube)への登録・公開を行います。

- 登録できる資料  
学会誌、紀要論文(「立命館大学」と名のついたもの)
- 登録できる人  
立命館大学に所属している教職員、研究者
- 著作権に関する留意点  
R<sup>3</sup>(R-Cube)に登録する研究成果物は、著作権処理済のものに限ります。

データ提出先/問い合わせ先

立命館大学 図書館サービス課  
 Mail r-cube@st.ritsumei.ac.jp Tel 075-465-8216  
 HP http://r-cube.ritsumei.ac.jp/

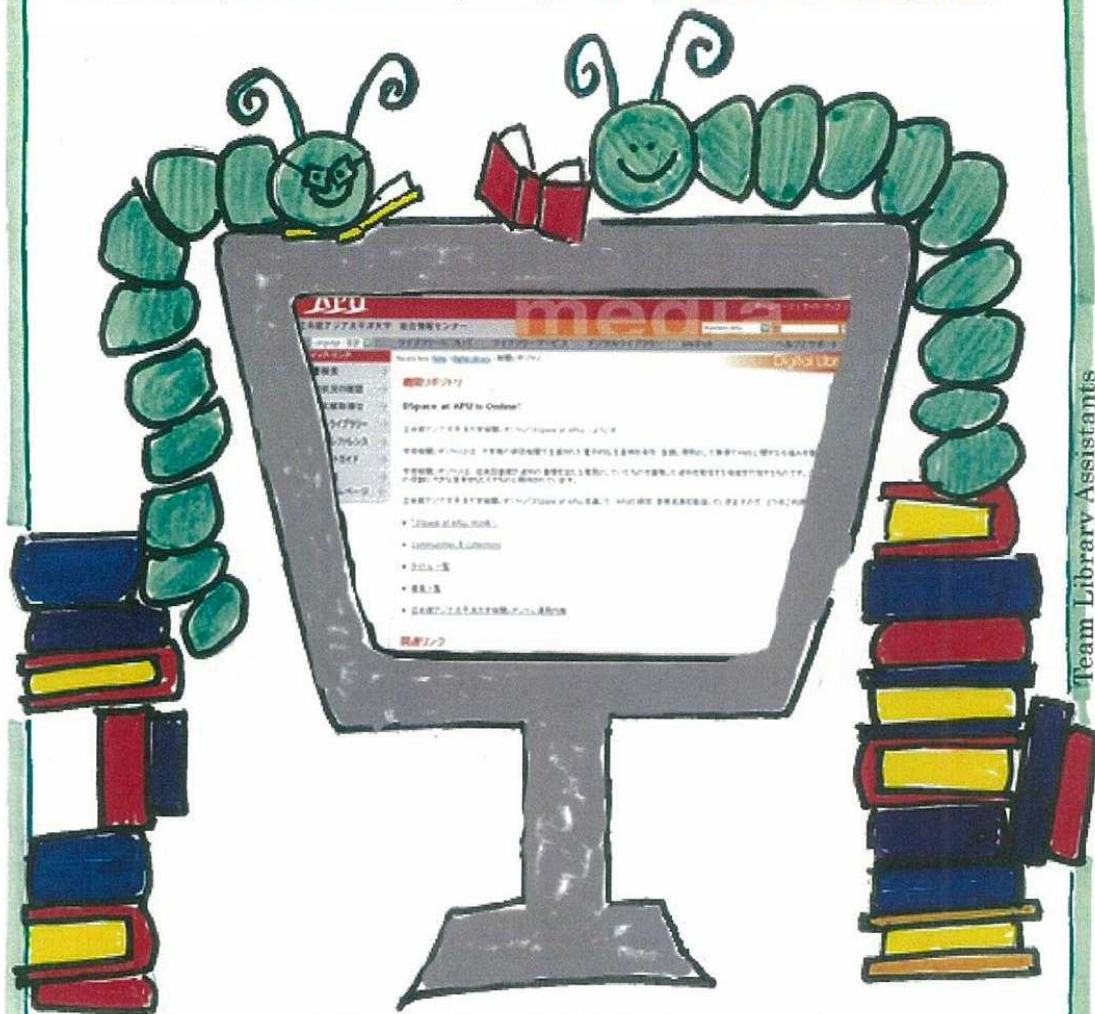
R-Cube



Collaborative Repository of Ritsumeikan Univ & APU

## 立命館学術成果リポジトリ

立命館大学と  
立命館アジア太平洋大学の  
データベースをひとつに統合



Team Library Assistants

## 学術成果リポジトリ 成立過程

APU - (立命館アジア太平洋大学)では平成18年1月より研究成果物公開システムを導入。約4ヶ月間の試験公開を経て、平成18年11月より、本格的に機関リポジトリを公開しました。

平成19年度はコンテンツの充実を目標に取り組み、姉妹校である立命館大学とAPUの共同リポジトリを平成20年4月に立ち上げました。

## 立命館学術成果リポジトリの特徴

本データベースの特徴は、立命館大学とAPUの2大学の学術成果を一元的に管理することにより、より広範な研究領域をカバーした検索が可能になっていることです。

これにより検索時間の短縮、多分野の同時検索、管理コストの削減を可能にしています。これらのデータはGoogleやJuNii+で誰でも無料で閲覧可能です。